

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.40		-		3.6
1 音環境				3.0	0.15	3.2	1.00		3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音				3.0	0.50	3.5	0.50		
	1 開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30		
	2 界壁遮音性能	専有部:界壁設計目標値Dr-50(予定)			-	4.0	0.30		
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	専有部:界床設計目標値Lr-45(予定)			-	4.0	0.20		
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20		
1.3 吸音					-		-		
2 温熱環境				2.6	0.35	4.0	1.00		3.8
2.1 室温制御				3.0	0.50	4.0	1.00		
	1 室温			3.0	0.63	-	-		
	2 外皮性能	日本住宅性能表示基準 5.1断熱等性能等級4を取得		3.0	0.38	4.0	1.00		
	3 ゾーン別制御性				-		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.0	0.25	3.0	1.00		3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0	0.50		
	1 昼光率			3.0	0.60	3.0	0.50		
	2 方位別開口				-	3.0	0.30		
	3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.50		
	1 昼光制御			3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				4.2	0.25	4.2	1.00		4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.60	5.0	0.63		
	1 化学汚染物質	共用部・専有部:ほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用。ホルムアルデヒド以外のVOCについても放射量の少ない建材を全面的に採用。		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38		
	1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
	2 自然換気性能				-	3.0	0.33		
	3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理					-		-		
	1 CO ₂ の監視				-		-		
	2 喫煙の制御				-		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.4
1 機能性				4.3	0.40	3.8	1.00		3.8
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	5.0	0.60		
	1 広さ・収納性				-		-		
	2 高度情報通信設備対応	各住戸に1Gbitクラスのフロードバンド利用可能環境仕様			-	5.0	1.00		
	3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たす		4.0	1.00				
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	2.0	0.40		
	1 広さ感・景観				-	3.0	0.50		
	2 リフレッシュスペース				-		-		
	3 内装計画	海に近い立地を生かし、「シークレットビーチハウス」のコンセプトのもと内装計画を行った。また、パースにより、内装の検討を行った。集会室は、内装計画共に、照度計算も同時におこなっている。		5.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				4.0	0.30		-		
	1 維持管理に配慮した設計	①エントランスホール、ピロティの壁面をタイル貼としている ②多機能トイレ床面を塩ビビニルシート貼としている ⑤風除室の一次扉と二次扉の離隔を適切に確保している ⑥維持管理がしやすいよう、各共用部で同種の仕上としている ⑨梁が外部にむき出し箇所は鳩除け対策を行う ⑩塩害対策の仕様としている ⑪スロープでの設計で、極力段差は無い		4.0	0.50		-		
	2 維持管理用機能の確保	①ゴミ置き場内に清掃用具収納を設置 ②清掃用資材の洗い場を設置。安全な排水経路を確保している。 ③ゴミ置場は1/50程度の勾配を確保 ④ゴミ置場は茅ヶ崎市の基準を満たす仕様としている ⑤清掃用の水道を設置している ⑥廊下に共用のコンセントを設置 ⑦高所作業時使用想定丸環を設置するための管理基礎を設ける ⑪住戸内に入らず共用部の点検、清掃を行えるよう計画している		4.0	0.50		-		
	3 衛生管理業務				-		-		

2 耐用性・信頼性			3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.5	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	住宅棟は日本住宅性能表示基準 3.1劣化対策等級3 を取得	5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:水道用SUS管(C) 汚水排水:硬質塩化ビニル管(B) 雑排水:硬質塩化ビニル管(B) Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.2	0.30	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり					3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高:2.9m以上3.0m未満。			4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく、修繕、更新が可能です。	4.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準 5.1断熱等性能等級4を取得	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.98	3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル系床材(管理室、管理室トイレ)、陶器質タイル(ピロティ、風除室・エントランスホール、前室)	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・リサイクル促進対策として、住戸は二重天井とすることで、配管や配線が躯体や仕上材と錯綜しないようにし、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当する有害物質を含まないことがメーカーにより確認されている、タイル用接着剤、壁紙用接着剤、タイル目地シーリング材、打ち継ぎ目地シーリング材、防水工事のプライマー材、塗膜防水の塗料材を使用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	・硬質ウレタンフォーム: ODP=0, GWP=1 ・A種押出法ホリスチレンフォーム保温板: ODP=0, GWP=3	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率85%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	I 1)住宅用に113台(住戸数×1.5倍)の駐輪場を確保する。 2)住民用にレンタサイクル4台を確保する。 II 1)住宅用に51台(住戸数×2/3)の駐車場を確保した。 2)車出入り口付近に荷捌きスペースを確保した。 3)入口から駐車場までは6.0mの幅の車路を設け、出庫灯、カーブミラーを設ける。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	

	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告物は無し。光害対策ガイドラインの過半数を満たした。	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	